

皮膚リンパ腫 全国症例数調査の結果 2014

濱田利久, 岩月啓氏 (岡山大学), 日本皮膚悪性腫瘍学会 皮膚がん予後統計委員会

結果1. 全国症例数調査 2014年分 (新規発症症例数)

	Total		Neoplasm Category	Male		Female		M/F	Age at diagnosis (y)		
	No.	%		No.	No.	Median	Average±std		Range		
Total	370	100.0	%	227	143	1.6	66	64.5±15.8	18-98		
T細胞・NK細胞リンパ腫	294	79.5	100.0	181	113	1.6	64	62.0±15.9	18-92		
菌状肉腫	145	39.2	49.3	85	60	1.4	64	60.2±16.4	23-92		
Sézary 症候群	6	1.6	2.0	5	1	5.0	76	74.3±5.4	66-79		
原発性皮膚CD30陽性リンパ増殖症 (CD30+ LPD)	45	12.2	15.3	29	16	1.8	59	57.3±16.0	18-89		
原発性皮膚未分化大細胞リンパ腫	26	7.0	8.8	18	8	2.3	60.5	60.2±15.0	32-89		
リンパ腫様丘疹症	19	5.1	6.5	11	8	1.4	57	53.3±16.8	18-73		
皮下脂肪織炎様T細胞リンパ腫 (SPTCL)	7	1.9	2.4	3	4	0.8	73	59.1±24.6	22-79		
末梢性T細胞リンパ腫, 非特定	22	5.9	7.5	15	7	2.1	68.5	67.5±14.9	30-87		
原発性皮膚CD4陽性小・中細胞型T細胞リンパ腫	6	1.6	2.0	5	1	5.0	51	49.0±11.4	28-59		
原発性皮膚γδT細胞リンパ腫	1	0.3	0.3	0	0	-	-	-	-		
原発性皮膚CD8陽性進行性表皮向性細胞傷害性T細胞リンパ腫	4	1.1	1.4	2	2	1.0	-	-	-		
節外性NK/T細胞リンパ腫, 鼻型	8	2.2	2.7	3	5	0.6	70	68.9±13.3	44-83		
成人T細胞白血病・リンパ腫 (皮膚病変が主な症例)	50	13.5	17.0	33	17	1.9	70.5	67.5±11.6	42-90		
B細胞リンパ腫	72	19.5	100.0	43	29	1.5	73	73.7±11.5	47-98		
粘膜関連リンパ組織の節外性辺縁帯リンパ腫 (MALT)	20	5.4	27.8	10	10	1.0	70	69.6±11.7	52-94		
原発性皮膚濾胞中心リンパ腫 (pcFCL)	11	3.0	15.3	6	5	1.2	67	72.0±13.3	47-98		
原発性皮膚びまん性大細胞型B細胞リンパ腫, 下肢型	27	7.3	37.5	17	10	1.7	80	78.4±11.0	61-98		
血管内大細胞型B細胞リンパ腫 (VLBCL)	14	3.8	19.4	10	4	2.5	73.5	71.9±7.8	58-83		
芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍 (BPDN)	4	1.1	-	3	1	3.0	-	-	-		

- 2014年の皮膚リンパ腫は総数370症例で、例年と大差はなかった。
- T/NK細胞リンパ腫が79.5%、B細胞リンパ腫が19.5%、芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍 (BPDN) は1.1% でこれも例年と大きな差はみられない。
- 発症頻度の高い順に、菌状肉腫/セザリー症候群 39.2%、成人T細胞白血病・リンパ腫 13.5%、原発性皮膚びまん性大細胞型、下肢型 7.3%、原発性皮膚未分化大細胞リンパ腫 7.0% であった。
- 皮膚リンパ腫全体では、男女比が1.6と男性に多く、診断時年齢の中央値は66歳であった。
- T/NK細胞リンパ腫に比べてB細胞リンパ腫は発症時年齢の平均値・中央値ともそれぞれ9歳・11.7歳高く、より高齢者に発症することがわかる。

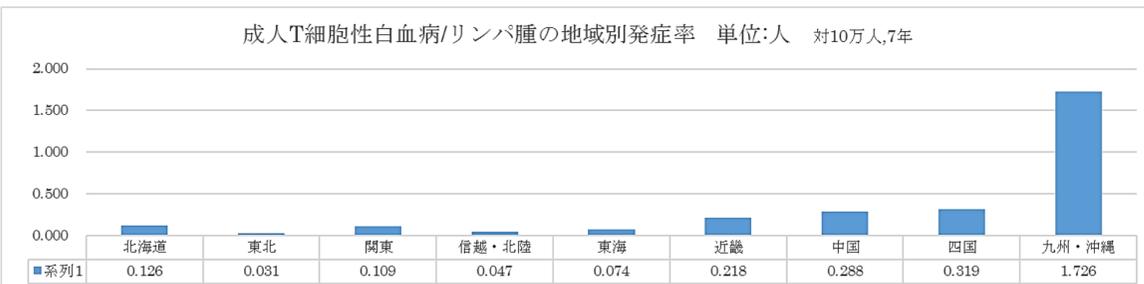
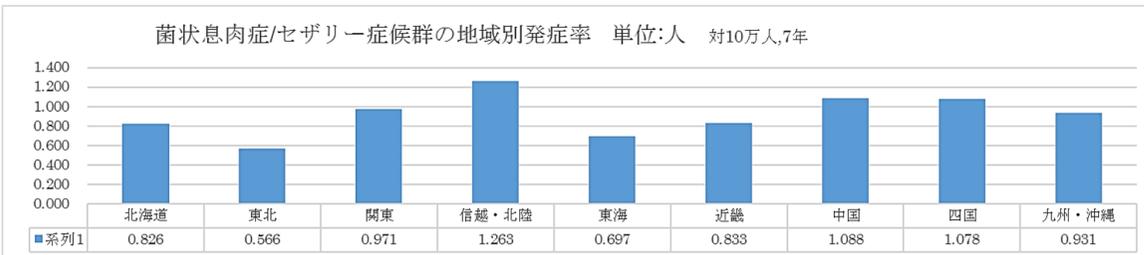
結果2. 皮膚リンパ腫 :海外との比較

研究グループ/研究施設 (国別)	全国調査 2014	大規模のデータベース			単1 (または 2) 施設での研究					
		全国調査 ¹⁾	SEER16 ²⁾	DAICL3 ³⁾	スイス ⁴⁾	フランス ⁵⁾	韓国 ⁶⁾	台湾 ⁷⁾	岡山大学 ⁸⁾	
全症例数	370	1733	3884	1905	263	203	164	31	133	
調査期間 (年)	1	5	5	17	20	7	16	17	14	
T細胞・NK細胞リンパ腫	79.5	85.7	71.3	77	72	75.9	79.2	74	79.7	
菌状肉腫	39.2	43.3	38.3	47	43	43.3	14	13	41.4	
Sézary 症候群	1.6	1.9	0.8	3	11	7.9	0.6	3	0.8	
原発性皮膚CD30陽性リンパ増殖症 (CD30+ LPD)	12.2	12.0	10.2		13				12.8	
原発性皮膚未分化大細胞リンパ腫	7.0	7.8		8	8	3.5	14	10	6.8	
リンパ腫様丘疹症	5.1	3.8		12	5	7.4	5.5	6	6.0	
皮下脂肪織炎様T細胞リンパ腫 (SPTCL)	1.9	2.0	0.6	1		1	6.7	3	2.3	
末梢性T細胞リンパ腫, 非特定	5.9	5.8	20.8	2	2	1	4.9	16	3.8	
原発性皮膚CD4陽性小・中細胞型T細胞リンパ腫	1.6	1.4		2	3	3	3	6	0.8	
原発性皮膚γδT細胞リンパ腫	0.3	0.3		<1		0.5	4.9			
原発性皮膚CD8陽性進行性表皮向性細胞傷害性T細胞リンパ腫	1.1	0.4				0.5				
節外性NK/T細胞リンパ腫, 鼻型	2.2	2.3	0.3	<1	<1	0	20.7	16	3.8	
成人T細胞白血病・リンパ腫 (皮膚病変が主な症例)	13.5	16.7	0.1				0.6		9.8	
B細胞リンパ腫	19.5	12.9	28.5	23	28	24.1	16.5	26	18.0	
粘膜関連リンパ組織の節外性辺縁帯リンパ腫 (MALT)	5.4	4.2	7.1	7	14	4.9	8.5	10	5.3	
原発性皮膚濾胞中心リンパ腫 (pcFCL)	3.0	2.1	8.5	11	8	17.7	0	10	0.0	
原発性皮膚びまん性大細胞型B細胞リンパ腫, 下肢型	7.3	5.5	2.6	4	4	1	1.2	6		
血管内大細胞型B細胞リンパ腫 (VLBCL)	3.8			<1		0.5	1.2		0.8	
芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍 (BPDN)	1.1	1.2	0.2						0.8	

- 本邦ではT/NK細胞リンパ腫の頻度が欧米に比べてさらに高くなる傾向にある。
- 本邦では欧米を含む他地域に比べて、成人T細胞白血病・リンパ腫の頻度が突出して高く、本邦でT/NK細胞リンパ腫の頻度が高くなる主要因と思われる。
- 欧米でまれな節外性NK/T細胞リンパ腫、鼻型は本邦で2.2%、韓国や台湾の調査ではそれぞれ20.7%、16%と頻度がより高かった。
- 本年度の調査結果は、文献1 (2007年-2011年) のデータと比較すると、B細胞リンパ腫の割合がやや高い傾向にあった。

1 Hamada T, et al. J Dermatol 41: 50-6, 2014.
 2 Bradford PT, et al. Blood 113: 5064-73, 2009.
 3 Willemze R, et al. Blood 105: 3768-85, 2005.
 4 Jenni D, et al. Br J Dermatol 164: 1071-7, 2011.
 5 Bouaziz JD, et al. Br J Dermatol 154: 1206-7, 2006.
 6 Park JH, et al. J Am Acad Dermatol 67: 1200-9, 2012.
 7 Liao JB, et al. Arch Pathol Lab Med 134: 996-1002, 2010.
 8 Fujita A, et al. J Dermatol 38: 524-30, 2011.

結果3. 菌状肉腫/セザリー症候群および成人T細胞白血病リンパ腫の地域別発症頻度 (2007-2013年)



- 菌状肉腫/セザリー症候群では東北地方と東海地方で信越・北陸地方に比べて罹患率が約半数で低い数字であった。施設バイアスの可能性もあるが詳細は不明である。
- ATLLについては、流行地をふくんでいる九州・沖縄地方での罹患率が圧倒的に高い(東北地方の55.7倍)。
- ATLLは人口の移動とともに都市部で上昇の傾向とされているが、関東地方 0.109、近畿地方 0.218 であった。東北、信越・北陸、東海地方と比較しても高い傾向にあった。
- ATLLは北海道地方でも上記3地方よりも罹患率が高い傾向にあった。

謝辞: 貴重な症例の情報提供をいただいた先生方に書面をもってここに感謝の意を表します。この調査は継続してゆきますが、皆様のご協力がなければ成り立ちません。今後ともご協力のほどよろしくお願いたします。